

## 日中国交正常化30周年「第14回日中シンポジウム」

日中をとりまく国際環境の変化と両国の新たな交流深化の可能性を探る

主催: 社団法人 アジアフォーラム・ジャパン

中国現代国際関係研究所

日時: 2002年11月15日

中国現代国際関係研究所

陸 忠偉 所長

「AFJ CICIR及び関係諸団体との交流評価・総括」

中国現代国際関係研究所とアジアフォーラム・ジャパンとの交流は80年代の前半に遡る古い友人の関係にあります。AFJとの関係は古く、天安門事件直後の89年のまだ戒厳令が敷かれているときに、第一回のシンポジウムが開催されました。こうした大規模な意義のあるシンポジウムの開催を始まりとして20年の歩みを続けてきました。この間、中国現代国際関係研究所とアジアフォーラム・ジャパンとは非常に緊密で、深い信頼関係を築いてきました。

この20年にわたり、中国現代国際関係研究所の研究・指導体制も変わりました。皆様ご存じのように、89年の天安門事件のときは、柳所長、その次は耿所長、諶所長が務めました。そして、1999年から私が所長を務めております。20年にわたり、我々は色々な形で交流を深めてきました。例えば、客員研究員の相互交流があります。私をはじめ、徐国雄氏等がいます。経済プロジェクトの推進にも力を入れました。上海での日本の資本との合併プロジェクトなどが大きな成功をおさめました。また、学术交流にも力を入れました。アジアフォーラム・ジャパンとの交流を通じて、学术界との交流も深められた。例えば、日本の代表的な学者、田中明彦先生とか、伊豆見元先生、昨年北京に来ていただいた小此木政彦先生等との交流を深めました。また、日本の代表的な政治家との会見、いわゆる要人会見も何回もアレンジして頂いた。先に普勝理事長も指摘されたように、91年の喬石全人代委員長との会見、92年当時、首相であった宮沢喜一先生との会見、幹事長であった加藤紘一先生との会見、そして、96年には、北京での江沢民国家主席と普勝理事長等との会見、2000年11月には、私が来日した際には、野中

先生、谷垣先生、竹中先生との会見をアレンジしていただいた。こういう20年間の歩みを振り返ると、国際情勢も変わり日中両国の国内政治情勢・経済情勢も変わりました。普勝理事長も指摘されたように今年の日中国交正常化30周年を迎え、来年は日中友好平和条約締結20周年にあたります。こういう記念すべきイベントを前にして、我々が直面する世界状況と地域状況とは深く変わりました。去年の9・11事件以降、我々国際関係を研究する研究者がよく使用するキーワードは、ポスト・9・11であります。これは丁度、我々がポスト戦後、ポスト冷戦という言葉を使うのと同じように、世界状況がすっかり変わったということを意味します。ご存じのように、9・11以降中米関係も、すっかり変わりました。この事件前は、中米関係は、厳しかったが、先程の江沢民国家主席の訪米を契機として、中米関係も、徐々に安定の方向に向かって来ています。何故なら、中米関係の政治的基礎は、二つの柱があると考えからです。一つは反テロ対策です。もう一つは、いわゆる核不拡散問題です。こういう柱に支えられて、今の中米関係、そして、これからの数年間中米関係は安定に向かうと私は楽観しています。そして、中米関係が安定化すると、これからの中・日・米関係をどのように発展させていくかが大きな課題になってくると思います。

世界状況が変わると同時にアジア・太平洋地域も大きく状況が変わりました。普勝理事長も指摘されたように、朝鮮半島問題、中国人としては日本人の拉致事件に同情をもっております。また核不拡散問題においても、私に言わせれば、中国と日本とは同じ立場にいると思います。中国も隣の朝鮮半島に核が拡散しないように、大量破壊兵器が拡散しないように頑張っていきたいと思っています。そして、今度のカンボジア会議において、中国、日本、韓国との間でFTAについて話し合いました。これはこの地域における重大なテーマであると考えております。これから、10年の間で実現できるかどうか、我々中国側も努力しています。去年、今年と普勝理事長が指摘されたように中日間の定期的対話、私に言わせれば、ワンプラスワン+ワンですが、丁度昨日から、中国、日本、韓国のニュー・リーダーとの対話が、日本の「国際交流基金」、韓国の「コリア・ファンデーション」と中国現代国際関係研究所の協力で実現しました。このことを報告させていただきます。こういう状況の下で、これから21世紀の中日関係はどのように発展していくか、今までと違って中日関係はどのような柱で支えられていくかという、私は、注目すべき大きな分野があると考えます。エネルギー分野での協力、アジアフォーラム・ジャパンとの協力等あると思います。これはまさに、十数年前、当時の宮澤首相の頃、日本がよく言っていたことですが、アジア地域における日中関係、世界における日中関係を築くことの重要性です。これ

からの20年間の間に我々の努力でこの関係を築き上げることができると私は楽観的に確信しております。

今回のAFJとの交流を始まりとして、これから、アジアフォーラム・ジャパンと私どもの研究所との交流関係をもっと強化していく。私はこの関係の強化は日中関係を発展させていくことに役立つと確信しています。普勝理事長が指摘されたように、アジアフォーラム・ジャパンと私どもの研究所との交流は、「独自性」を持っています。それから私に言わせれば、この関係は、「政策性」と「戦略性」を合わせ持っている関係であると思います。

今まで我々は20年間の道を歩んできましたが、楊伯江さんなどの若い世代、これからの世代にもこの宿題を残しておこうと思います。有り難うございました。